

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 22 回 警察署長の警鐘

地元の商工会議所が主催する賀詞交歓会に出席した。肅々と挨拶が続き地元警察署長の挨拶となった。市長、会頭、地元選出の国・県会議員等々、いわゆる「地元の名士」が並々いる中で、マイクの拡声装置が壊れるかの大声で、「あんたたちは…」との第一声。ど肝を抜かれる思いでびっくりする参列者を尻目に、署長の挨拶はマイペースで続く。

要は、...犯罪が多くなりしかも凶悪化している。警察は努力をしているが、とても完璧とはいえない。特に埼玉県警は人口割で警察官の数が足りない。今年は国体の開催も予定され、徹底的に取締りを強化していくが、あんたらも、人に頼らず、自分のことは自分でしっかりおやんなさい、そうすれば少しは世の中、良くなるだろう...こんな調子だった。

お説ごもっとも、全くその通りである。

日本の警察が優秀で検挙率が高く、犯罪発生率が少ない「超安全」な国である、というのはもはや瞑想、過去の話となった。この原因を某知事は、悪徳外国人のせいにするが、どうも、そうとばかり片付ける訳にはいかないようだ。

いい事と悪いことすら明確に教えず、人への労(いた)わりや思いやりの気持ちすら感じない国民ばかりになった時、決まって無法国家になるだろう。自分だけ良ければ、自分さえ目立てば、何をしてもいいんだ、こんな完璧に馬鹿が成人式に来るために、今年の成人 152 万人のすべてが同じ目で見られるとしたら、迷惑千万。ほとんど多くのまじめな成人は「やってられないよ」ということになってしまう。

自分のことは自分で考え、自らの責任は自ら果たしていく。生活も、仕事も、勉強も遊びも、正に自己責任のもとに、日々、実践できれば、こんな現象は起こらないかもしれない。それを家族ぐるみで共に考え、学校も一緒に検討しながら、更にそれを社会が支え、地域が一体となった時、本当に犯罪とその予備軍は減少していくに違いない。

これが、あの、声のやたらでかい、警察署長が言わんとしたことであろう。犯罪と一言で言っても色々である。やっぱり外国人の問題もあろう。暴力団や暴走族もいる。もっと性質(たち)が悪い政治家、官僚、経済トップ、マスコミ等日本のエリート層の卑劣な犯罪も後を絶たない。

しかし、彼ら犯罪者の出発点は幼少期にある。その原点は家庭教育であり学校教育であり、そして社会教育である。この原点が薄れてきた日本こそ、犯罪大国へのプロローグとして、大いなる警鐘を発しなければならない。

あの、警察署長の大声が、その警鐘として鳴り響いたのかもしれない。それにしても、未だにあの大声が耳から抜けず、寝むれないで困っている。